

江戸時代の臨春閣 春日出新田食氏庭

発表者：片山会員

国立国会図書館のデジタルコレクションで「春日出新田食氏庭」という絵図（図面）が公開されています。三溪園臨春閣の江戸時代の姿が描かれています。国会図書館で未整理のまま長く保管されていたものです。

臨春閣は 1649 年紀州徳川家初代藩主徳川頼宣が和歌山紀ノ川沿いに建てた夏の別荘「巖出御殿」であると推定されています。1764 年に取壊された後、泉佐野の豪商食家（飯野家）に下げ渡され大阪の春日出新田に別荘として移築されました。その直後の姿を描いた絵図と思われます。1839 年清海家に譲られ、1906 年（明治 39 年）原三溪が譲り受け三溪園に移築しました。

各部屋の大きさ、床や欄間や天井の様子、障壁画の有り様、庭の植栽や飛石、御鹿山の春日社などが細かく描かれています。そして堀川の上に懸け造りの 2 部屋、その向こう岸にも 1 部屋があるなど今はない建物、部屋なども描かれています。障壁画も臨春閣と比べて同じもの、違うもの、同じと思われるが作者、画名が違うものなどさまざまです。

この絵図には説明書が添付されています。明治 24 年に庭園史家、造園家、東京師範学校教官であった小澤圭次郎（酔園居士）がこの絵図について説明しています。それによれば明治 21 年帝室博物館初代館長町田久成の紹介で春日出新田を訪れ、建物、園林、泉石などを詳細に観察し、その 2 年後この絵図を入手したこと、この絵図は古地図の収集家、大阪の天満宮祝部渡辺吉賢（花鈴）が明和時代（1764～1772 年）に描き残したものであることなどが書かれています。

崩し字が多く解読は難しいが、今までに見たことがない詳細な絵図であり、大変興味深いものです。

（片山）



絵図を俯瞰したり拡大したりしながら丁寧に解説してくださいました。

平成30（2018）年度総会

「平成 29 年度事業報告及び会計報告」「平成 30 年度事業計画及び予算案」「平成 30 年度運営委員の選任」についていずれも案のとおり承認されました。

29 年度も充実した活動を行いました。30 年度は「三溪生誕 150 年記念事業」として、三溪園でのクイズやツアーなどの例年実施している活動のなかに 150 年記念となる要素を加えていく計画です。

